

JA全厚連情報

(毎月 1 日 発行)

No.1124 2023 年 2 月 1 日

目 次

- 医師の働き方改革等について情報交換
労務関連セミナーをWEB開催 1
- 受診者拡大に向けた取組みについて意見交換
健康管理厚生連活動推進検討会をWEB開催 2
- 財務分析の知識について研修
厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第3クール）をWEB開催 4
- 令和5年度健康管理厚生連活動推進検討会のすすめ方等について協議
事業企画委員会を開催 5
- JA全厚連の令和5年度事業計画等について説明・協議
厚生連常勤役員・参事会議を開催 6

・通信員だより

- 秋田県循環器病予防タウンミーティング（北秋田市民病院） 7
- 心電図伝送システム運用開始（能代厚生医療センター） 8
- 看護専門学校開校 50 周年 功労賞受賞（土浦協同病院附属看護専門学校） 9
- JA常陸青年部による農産物・加工品販売会（総合病院水戸協同病院） 10
- 大規模災害訓練を開催（相模原協同病院） 11
- 神奈川県立相原高等学校より「門松」をいただきました（相模原協同病院） 12
- 伊勢原協同病院薬局主催で地域医療連携薬局研修会を開催（伊勢原協同病院） 13
- 物流ドローンの災害時医療での活用に向けた実証実験に参加しました（足助病院） 14
- JAなごやより手作りの「折り鶴」と「ローズウインドウ」をいただきました（JAあいち健康センター） 15
- JAあいち豊田より「松平の七草粥セット」と「とよた茶」をいただきました（豊田厚生病院・足助病院） 16
- JA香川県から再び寄付をいただきました（JA香川厚生連） 17



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル

TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@ja-zenkouren.or.jp

(経営支援グループ)

<http://www.ja-zenkouren.or.jp>

編集責任者 中村 純誠

医師の働き方改革等について情報交換

労務関連セミナーをWEB開催

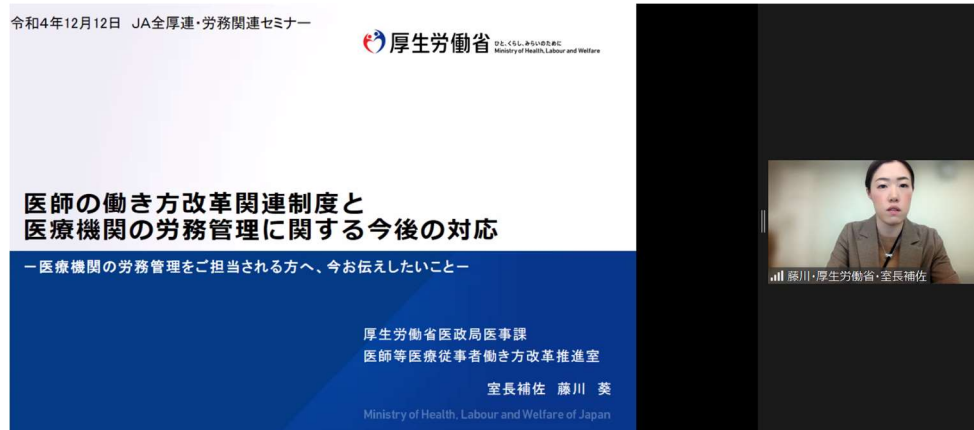
本会は令和4年12月12日、労務関連セミナーをWEBで開催し、24 厚生連から28 名が参加した。

本セミナーは、人事・労務に関連する情勢を把握し、その取り組みを共有することを目的に開催しており、当日は「医師の働き方改革関連制度と医療機関の労務管理に関する今後の対応」（藤川葵・厚生労働省 医政局 医事課 医師等医療従事者働き方改革推進室 室長補佐）、「社会保険制度改正にかかる動向」（福島紀夫・社会保険労務士法人 あい事務所所長）の2題の講演ののち、情報交換を行った。

藤川氏は、特定労務管理対象機関の指定に係る都道府県・医療機関の手続きの流れ等について説明し、早めの申請を行うよう促した。

福島氏は、社会保険の運用拡大や、育児介護休業法の改正について説明を行った。

また、講演後、事前アンケートにもとづき、医師の働き方改革にかかる対応等の現状について、情報交換を行った。



藤川氏講演の様子



福島氏講演の様子

受診者拡大に向けた取組みについて意見交換

健康管理厚生連活動推進検討会をWEB開催

本会は令和4年12月16日、20日の両日、健康管理厚生連を対象に「健康管理厚生連活動推進検討会」をWEBで開催した。検討会は2つのグループに分け、Aグループは7厚生連から13名、Bグループは3厚生連から3名が参加した。また、本検討会のアドバイザーとして社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷予防検診センター事務長・池田孝行氏が両日程とも参加した。

本検討会は、健康管理厚生連における健康増進活動の課題を解決することを目的に、「受診者拡大に向けた取組み（事業推進先別取組み）」をテーマとし、PDCAサイクルを活用し、対応策の立案・取組みの追跡・評価を8月と12月の2回に分けて開催している。

今回開催した第2回目の検討会では、各厚生連が第1回の検討会にて策定した取組み案を実施した結果を報告し、報告後に他厚生連との意見交換および池田アドバイザーからの助言をふまえた今後の取組みについて発表を行った。

参加者からは、「他県の取組みについて、本会で実施できることを積極的に取り組みたい」、「広報についても取り組まなければと感じた」といった意見があった。また、池田アドバイザーについて「プレスリリースや健康経営コンサルなどを担当されていることもあり、大変具体的なアドバイスをいただくことができ、よかった」などの意見があった。



第2回目 A グループの検討会WEBでの様子(12月16日)



第2回目 B グループの検討会 WEB での様子(12月20日)

財務分析の知識について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第3クール）をWEB開催

本会は令和4年12月22日、23日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（基礎編第2クール）をWEBで開催し、16厚生連から39名が参加した。

今回の基礎編第3クールでは、財務会計の知識をテーマに、①財務会計と管理会計の違い、②CVP分析の基礎、③設備投資意思決定の基礎、④事業計画策定の基礎、⑤管理会計の復習、⑥CVP分析の基礎演習、⑦設備投資意思決定の基礎演習—について研修を行った。

1日目は、財務会計と管理会計の違いについて講義を行い、財務会計は外部報告のための会計であるのに対し、管理会計は経営管理のための会計であり、過去・現在のデータを使って経営の意思決定に生かすものであることを学習した。また、安全性分析、収益性分析、成長性分析、生産性分析といった財務分析および事業計画策定の基礎について学習した。

2日目は、1日目の講義をふまえ、CVP分析の演習や設備投資意思決定の演習をグループに分かれて行った。



研修の様子

令和 5 年度健康管理厚生連活動推進検討会の すすめ方等について協議

事業企画委員会を開催

本会は令和 5 年 1 月 10 日、11 日に、東京・大手町の J A ビルにおいて、事業企画委員会を WEB 併催した。

10 日は保健事業部門（健康管理厚生連の常勤役員で構成）を開催し、（１）J A 全厚連令和 5 年度事業計画の検討、（２）令和 6 年度診療報酬・介護報酬改定要望、（３）厚生事業にかかる要請活動、（４）日本郵政共済組合における人間ドック業務にかかる連携、（５）令和 5 年度健康管理厚生連活動推進検討会のすすめ方、（６）早期収支改善スキームにもとづく施設整備計画の検証—等について検討した。

そのうち、（５）について、委員からは「具体的に各厚生連が実際にやっている取組みが共有でき、それが一つでも二つでも自分の厚生連の取組みにつながるような検討会にしてもらいたい」といった意見が出された。

11 日は医療事業部門（医療事業厚生連の常勤役員で構成）を開催し、（１）J A 全厚連令和 5 年度事業計画の検討、（２）令和 6 年度診療報酬・介護報酬改定要望、（３）厚生事業にかかる要請活動、（４）令和 5 年度特別交付税措置の拡充、（５）日本郵政共済組合における人間ドック業務にかかる連携、（６）早期収支改善厚生連の状況等、（７）早期収支改善スキームにもとづく施設整備計画の検証—等について検討した。

JA 全厚連の令和 5 年度事業計画等 について説明・協議

厚生連常勤役員・参事会議を開催

令和 5 年 1 月 27 日に東京・大手町三井カンファレンス 4 階において、WEB 会議システムを併用して、厚生連常勤役員・参事会議を開催した。

会議に先立ち、山田勝土氏（厚生労働省大臣官房参事官）が「感染症法等の改正について医療機関、特に公的医療機関に関わるところを中心に」をテーマに講演を行った。講演では、これまでの感染状況や国のこれまでの取組みを紹介したのち、令和 4 年 12 月 2 日に成立した感染症法等改正案について、新型コロナウイルス感



講演を行う山田氏

染症への対応を踏まえ、国民の生活及び健康に重大な影響を与えるおそれがある感染症の発生及びまん延に備えるため、国又は都道府県及び関係機関の連携協力による病床、外来医療及び医療人材並びに感染症対策物資の確保の強化、保育所や検査等の体制の強化、情報基盤の整備、機動的なワクチン接種の実施、水際対策の実効性の確保等の措置を講ずるとの改正の趣旨について説明があった。

また、公的医療機関に関わる内容としては、感染症発生・まん延時における医療提供体制の整備等について、都道府県が定める予防計画等に沿って、医療機関等の間で病床、発熱外来、自宅療養者等への医療の確保等に関する協定を締結する仕組みを法定化することに加えて、公立・公的医療機関等に感染発生・まん延時に担うべき医療提供を義務付けることについて説明があった。

会議では、協議・報告事項として、（１）JA 全厚連 令和 5 年度事業計画（案）、（２）厚生事業にかかる要請活動、（３）令和 6 年度診療報酬・介護報酬改定要望（案）、（４）改正個人情報保護法にかかる対応、（５）令和 4 年度経営収支概要一等に関し協議・報告を行った。

会議において厚生連からは、光熱費や食材費、資材等の高騰による経営への打撃等について、JA 全厚連から政府に現状を伝えるとともに、要請してほしいとの要望があった。



秋田県循環器病予防タウンミーティング

(JA秋田厚生連・北秋田市民病院)

令和4年11月19日に秋田県の主催で、北秋田市民病院（神谷彰病院長）が運営主体となって「秋田県循環器病予防タウンミーティング」を開催しました。この会の目的は、脳血管疾患・心筋梗塞などの循環器病についての正しい知識の習得や地域の健康づくりを担う人材育成につなげるものです。

参加したのは北秋田市の地域の健康づくり活動への従事者、北秋田市保健センターや北秋田市社会福祉協議会の職員など、約30名でありました。昨今の時勢を考慮し、コロナウイルス感染防止対策には万全を期して行いました。

テーマは「減塩と味噌のモヤモヤをスッキリ！」として、はじめに当院の佐藤誠医師より心血管病予防に関する導入講演や栄養科管理栄養士の藤田智保主任から令和4年8月10日に先行で行われた健康ハートの日共催イベントの「JA秋田厚生連9病院 栄養科合同イベント地元食材を使った減塩レシピ」と合わせて講演が行われました。外部講師もお招きし、味噌ソムリエ、また食育アドバイザーの小山明子様から味噌の魅力と減塩についてのアドバイスなどをご講演いただきました。

講演後、講師も交えて参加者による「減塩について」のグループワークを行いました。グループワークでは当院のスタッフも一般参加者の中に入り、活発な意見交換が行われ、終始明るい雰囲気の中で、誰もが参加でき、意見を交わしやすい会だったと思います。来年度以降も地域の健康づくりに貢献する活動の一環として継続していきたいと思います。



「味噌ソムリエ 小山明子様」講演の様子

(三浦由佳通信員)

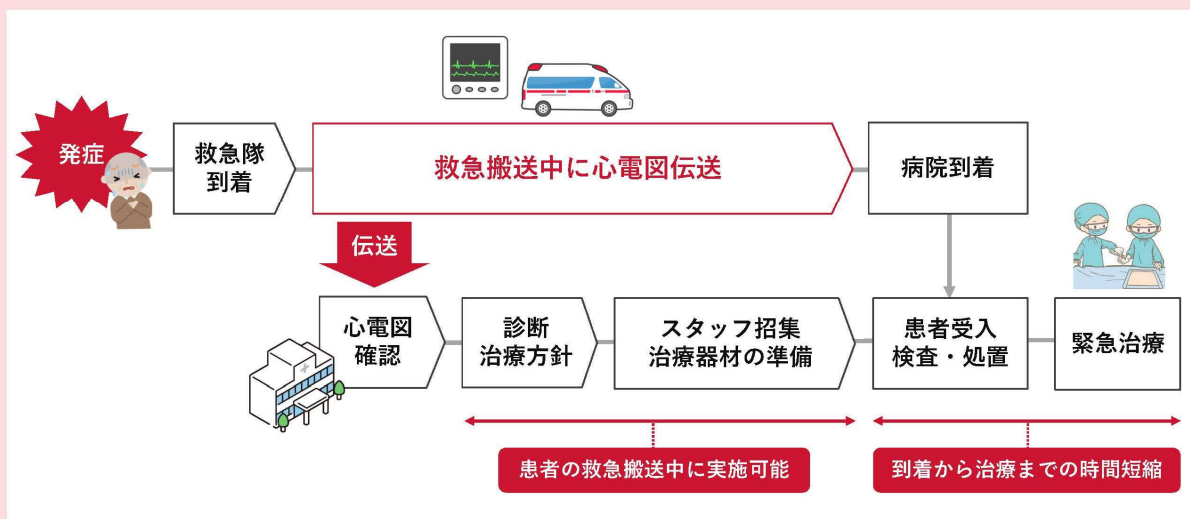
心電図伝送システム運用開始

(JA秋田厚生連・能代厚生医療センター)

能代厚生医療センター（太田原康成病院長）では、令和4年11月よりクラウド型心電図伝送システムが本格稼働しました。心電図検査は心臓の動きを電気的な波形に現して記録することで、心臓のどの部位に異常が起こっているかなど状態を把握することができます。当システムの導入により、救急車内で実施した心電図検査の結果を病院で確認し、早期に患者さんの容態を把握することで、救急隊への指示や迅速な受け入れ準備が可能となり、治療開始までの時間短縮が期待されます。

県内でも既に各地域で稼働しており、能代山本地区では、高規格救急車1台からの運用開始となりますが、当院の基本理念である「地域中核病院として地域の皆様の健康を守る」ことを十分に認識して、患者さんへの有効活用に努めてまいります。

12誘導心電図伝送システム



12 誘導心電図伝送システム

(三浦由佳通信員)

JA常陸青年部による農産物・加工品販売会

(JA茨城県厚生連・総合病院水戸協同病院)

1月20日、総合病院水戸協同病院（渡辺重行病院長）の玄関前及び、茨城県JA会館1F「クオリテ Lab（ラボ）」で、JA常陸青年部による農産物即売会が行われました。

県北地域に位置するJA常陸管内には、様々な農産物があることを消費者の方々に知ってほしいという思いから、今回の販売会の開催に至りました。



JA会館1F「クオリテ Lab(ラボ)」での販売会の様子

当日は青年部員や事務局12人が参加し、奥久慈りんご、ねぎ、リーキ（西洋ねぎ）、いちご、米、キャベツだけでなく、リンゴジュースやアップルパイなどの加工品の他、「令和4年度いばらき農の6次化商品コンテスト」で特別賞を受賞した太子林檎紅茶、テレビ番組でも取り上げられた刺身こんにゃくなどの多くの品物が出揃い、病院に訪れた方だけでなく地元商店街の方も集まり大盛況となりました。

青年部の菊池常昭委員長は「今後も茨城県北地域の農業を盛り上げる活動を行い、私たちが育ててきた農産物や加工品で消費者の方々が笑顔になれば幸いです」と話しました。



大盛況となった病院前での販売会の様子

(酒井一彦通信員)

大規模災害訓練を開催

(J A神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和4年12月17日に相模原協同病院（井關治和病院長）では、大規模災害訓練を実施しました。被害状況報告書に沿った大規模災害への対応訓練と模擬患者を設定しての受入訓練を行いました。実際に模擬患者を設定して受入訓練を行うと臨場感が違います。自然災害が増えている中、訓練を行うことで不測の事態に備えていきたいと思います。



本部



被害状況の報告



模擬患者受入れ訓練

(新嶋友梨恵通信員)

神奈川県立相原高等学校より 「門松」をいただきました

（JA神奈川県厚生連・相模原協同病院）

令和4年12月26日に、相模原協同病院（井關治和病院長）に隣接する神奈川県立相原高等学校より「門松」をいただきました。昨年と同様、環境緑地科の生徒さんが制作してくれました。一年中落葉しない松、成長が早く生命力の強い竹、新春に開花し年始にふさわしい梅と3つの縁起物が盛り込んであり大変立派な門松でした。コロナ終息の際には、病院でのイベント等で高校生との交流を深めていきたいと思います。



門松

（新嶋友梨恵通信員）

伊勢原協同病院薬局主催で 地域医療連携薬局研修会を開催

(J A神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）では、地域の保険薬局や医療機関との連携をより密にするために、同院薬局主催で「地域医療連携薬局研修会」を開催しています。令和4年12月8日、「肝細胞がん」をテーマに、今年度3回目となる研修会をオンラインで開催しました。

本研修会はこれまで同院薬剤師からの情報発信が中心でしたが、今回は外部の保険薬局の薬剤師の方に「肝細胞がん患者さんへ薬局でできるフォローアップ」についてご講演いただきました。また、特別講演として同院 消化器内科診療部長 田中 賢明 医師から「肝細胞がんの診断と治療について～薬物治療を中心に～」をテーマに解説を行いました。

保険薬局や医療機関から合計 75 名と多くの薬剤師の方にご参加いただき、「ガイドラインから実臨床、症例を交えた治療薬変遷等、疾患全体を把握する上で大変参考になった」「次回もぜひ参加したい」など好評を頂きました。今後も本研修会を継続的に開催し、地域の保険薬局・医療機関との連携強化を図ってまいります。

(新嶋友梨恵通信員)

物流ドローンの災害時医療での活用に向けた 実証実験に参加しました

(JA愛知厚生連・足助病院)

令和4年9月2日・12月19日に「空飛ぶクルマ」・「物流ドローン」を開発する株式会社SkyDriveと足助病院（小林真哉病院長）、豊田市が主体となり物流ドローンの災害時医療での活用に向けた実証実験を行いました。

【実施場所】

香嵐溪（愛知県豊田市の足助町にある観光名所）・豊田市足助支所・足助病院

【想定シナリオ】

地震が発生し香嵐溪に繋がる橋が使用不可となり観光客が孤立。孤立した観光客の中でケガ人が発生するが、陸路で必要物資を届けることができないため空路で医療物資を運搬。たまたま居合わせた足助病院の看護師が医療物資を受け取りケガの手当を行う。

土砂災害等の自然災害が起きる恐れのある足助病院では、地域住民の健康・命・財産を守るために防災士の育成に力を入れています。地域への防災啓蒙活動も積極的に行い、地域全体の防災力を高めています。



12月19日 豊田市長、(株)SkyDrive・CEO 福澤氏をはじめ
当日は多くの方が実証実験に参加されました



9月2日の実証実験では、足助病院看護師による
救護（デモンストレーション）を行いました
※ドローンの飛行は、9月2日に雨天中止となっていたため
リベンジとして12月19日に実施しました

(井桁千聡通信員)

JAなごやより手作りの「折り鶴」と「ローズウインドウ」をいただきました

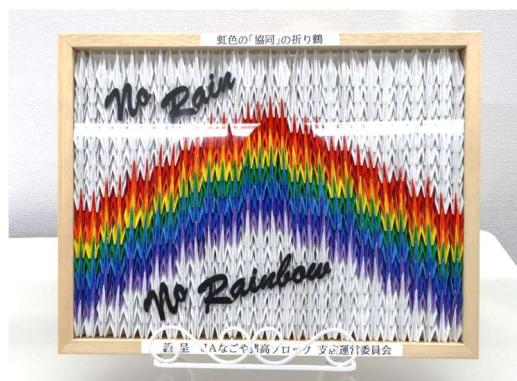
(JA愛知厚生連・JAあいち健診センター)

JA愛知厚生連（宇野修二・代表理事理事長）では令和4年12月12日、JAなごや猪高ブロック支店運営委員会ならびに女性部より医療従事者支援として虹色の「折り鶴」とペーパーアート「ローズウインドウ」をいただきました。

JA愛知厚生連本部で行われた贈呈式では、本会の今井常務が「苦しいのは医療従事者だけではないなか、お心遣いは励みになります」と述べ各支店の支店運営委員会・女性部支部長へ感謝状を贈りました。心温まるご支援をありがとうございました。



何枚もの切り絵を重ねてステンドグラス風に。
女性部員活動の教室で3支店が制作されました



支店に訪れた方々や職員 200 名以上で
約5か月間かけて制作されました



作品はJA愛知厚生連本部入口に飾っております

(井桁千聡通信員)

JAあいち豊田より「松平の七草粥セット」と「とよた茶」をいただきました

(JA愛知厚生連・豊田厚生病院・足助病院)

1月5日、JAあいち豊田より医療従事者支援として豊田厚生病院（服部直樹病院長）と足助病院（小林真哉病院長）へ「松平の七草粥セット」と「とよた茶」をいただきました。石川組合長より年末年始休まず働いた職員への激励と七草粥を食べて無病息災で引き続き地域医療に従事できるようにとお言葉をいただきました。心温まるご支援をありがとうございました。



豊田厚生病院での贈呈式



足助病院での贈呈式

(井桁千聡通信員)

J A 香川県から再び寄付をいただきました

(J A 香川厚生連)

J A 香川厚生連（田宮隆・代表理事理事長）は、令和 4 年 12 月 21 日に J A 香川県（村川進・代表理事理事長）から J A 香川県 S D G s 地域応援定期貯金「きずな」を活用した寄付金を贈呈していただきました。

定期貯金「きずな」は、J A 香川県が期間中に受け入れた定期貯金残高の 0.01% 相当の金品等を負担して、地域のフードバンクや医療従事者等に支援を行う取り組みで、春の第 1 回目に続き第 2 回目は 9 月 1 日から 10 月 31 日まで実施されました。

3 年ぶりに行動制限のない年末年始を迎えることから、新型コロナウイルスの感染拡大が危惧されております。このため、J A 香川厚生連では、新型コロナウイルス感染症への対応に、いただいた寄附金を有効に活用し、引き続き地域医療に貢献できるよう取り組んでいくこととしています。



贈呈式の様子(村川理事長(左)より目録を受け取る田宮理事長(右))

(武内あかね通信員)